

与謝野町 歌碑・句碑めぐり

かつて、与謝蕪村や高浜虚子、与謝野鉄幹・晶子など、
多くの文人たちが訪れた、「短歌と俳句のまち 与謝野町」。
美しく情緒あふれる、町の風景を詠んだ歌に触れる旅へ、
ご案内いたします。



おおうらとうげいちじかんー 大内峠一字観公園

長命いっぶく名水 ●

- 10 小室洗心句碑
- 11 木崎樗句碑
- 12 蝶夢句碑
- 13 河東碧梧桐句碑
- 9 三野青芒子句碑
- 8 与謝野鉄幹・晶子歌碑
- 妙見堂
- 管理棟

こうざんぶんこー 江山文庫周辺

- 1 与謝蕪村句碑
- 2 与謝野礼蔵歌碑
- 3 与謝野鉄幹歌碑
- 4 高浜虚子句碑
- 5 江山文庫

凡 例			
	高速道路		句碑・歌碑
	国 道		追 念 碑
	その他の道		役場・庁舎
	サイクリングロード		観光関連施設
	鉄 道		寺
	市 町 境		神社
	府 県 境		その他施設

与謝野町の歌碑・句碑

与謝野町は、与謝野鉄幹・晶子夫妻をはじめ、与謝蕪村や与謝野礼蔵など、日本の文学史にその名を刻む俳人や歌人たちがゆかりの地。数多くの俳句や短歌が詠まれ、情緒豊かなその作品からは、当時の彼らの息遣いが聞こえてきそうです。先人たちの愛した歌の風景を、まちに残る句碑・歌碑と共に訪ねます。

江山文庫周辺

短歌と俳句の殿堂「江山文庫」をはじめ、「野田川親水公園」「道の駅シルクのまちかや」の周辺には、当地ゆかりの文人たちが詠んだ句や歌が記された石碑が多く残っています。



暑さの中、川を渡りたいが近くに橋もないので裸足になり、両手に草履を提げて水に入る。素足にふれる水が冷たく心地よく、何ともうれしい。母のふるさとと伝えられるこの地で、蕪村が童心に帰った一句です。

与謝蕪村

1 丹波の加悦といふ所にて夏河を越すうれしきよ手に草履 蕪村

椿文化資料館前



樹齢千年を越すといわれる黒椿。きつとさまな人を見てきたのでしょう。時空を超えてさまざま人の、さまざま心がこの椿の古木に結実しているかのようです。

稲畑汀子

6 千年の心つなぎて黒椿 汀子

旧加悦駅舎前



なだらかに傾斜した田の畦が重なり合い、その畦は草紅葉で美しく飾られ、背後の大江山と相俟って素朴で平和な山里の風景を生み出しています。

倉田紘文

7 加悦谷の畦を重ねて草紅葉 紘文



何を見、何を聞いても涙ぐんでしまう、今暮らしている土地へと帰る時にも心残りや仕方がない、と、生まれ育ったふるさとを懐かしんでいます。

与謝野礼蔵

2 見も聞きも涙ぐまれて帰るにも心ぞ残る 与謝のふるさと 礼蔵



秋の夕日がさした雲が紅色に光り輝き、その雲の下には大江山連峰が紅葉によってその山肌全体を薄紅色に染めている、と光る雲と大江山の紅葉との美しい調和を詠んでいます。

与謝野鉄幹

3 飛ぶ雲に秋の日ひかりそのもに大江の山のもれるうすべに 寛



「花野」は秋草の咲き乱れた野のこと。日が昇り始める直前、東の空だけがわずかに明るく、その下には花野が照らし出され、空と大地の美しき一瞬を詠んでいます。

高浜虚子

4 ひんがしに日の沈みをる花野哉 虚子



眼前のしだれ桜の枝が花をつけ、重なり合い垂れ下がる姿は、細く細くたなびきながら空へと上ってゆく香の煙のようだと、自宅の庭に贈られたしだれ桜を詠んでいます。

与謝野晶子

5 いと細く香煙のごとあでやかにしだれぎくらの枝の重る 晶子

大内峠一字観公園

古くは「王落峠」「栲嶺」とも記された大内峠。かつてここにあった茶店に遊んだ頼山陽と中島棕陰が、天橋立を横一文字に眺める奇観に感嘆し、「一字観」と名付けたといわれています。



大内峠からの眺望が一番と詠む鉄幹に対し、晶子は峠の麓に広がる岩滝の町の賑わいを螺鈿細工になぞらえて歌っています。

与謝野鉄幹

与謝野晶子

※「寛」とは与謝野鉄幹のこと。明治37年(1904年)に「鉄幹」の号を廃し、以後本名である「寛」を名乗っています。

8 海山の青きが中に螺鈿おくの裾の岩瀧の町 晶子



大内峠は紅葉でも有名です。横一文字の天橋立の眺望も、かつてちりめん栄えた町並みも、今は赤一色に染まる紅葉の向こうにかすんで見える、と詠んだ句です。

三野青芒子

9 橋立も絹織る町も紅葉越し 青芒子



「須臾」は非常に短い間のこと。秋の丹後は空模様が目まぐるしく変化します。驟った空の橋立も快晴の橋立もひとしく愛おむ、地元俳人ならではの一句です。

小室洗心

10 橋立の陰晴須臾や秋の海 洗心



「松六里」は天橋立の松並木のこと。大内峠から見る天橋立の大パノラマ、その美しさを絵にするには、ただ一筋「一」を引けばまずは事足りる、と詠んでいます。

木崎栲

11 一ひけばまづそれでよし松六里 栲



橋立に雨を降らせている時雨雲が今まさに松並木を越えようとしています。丹後の秋の不安定な天候の只中にある天の橋立を詠んでいます。

蝶夢

12 はし立や松を時雨の越んとす 蝶夢



小春日和の穏やかな今日、空には細かい雲がちぎった綿のようにたなびきながら日差しを浴びている。何とも美しいその雲を頭上に抱き、天橋立の松並木も沈んで見えるようだ、と詠んでいます。

河東碧梧桐

13 大内峠 小春雲綿と飛ぶ松沈むかと 碧



発行者：与謝野町観光協会
〒629-2403
京都府与謝郡与謝野町加悦1060 旧加悦町役場内
TEL 0772-43-0155
URL <http://www.kyt-net.jp/yosano-kankou/>
E-mail yosano-kanko@kyt-net.jp
資料提供：与謝野町教育委員会

板列八幡神社

平安時代中期の創建と伝えられ、現在の社殿は天保5年に再建されたもの。祭神は菅田別命と息長足姫命と稲酒の売命。御神像の木造女神坐像2軀は、国指定重要文化財でもあります。



昭和5年5月鉄幹と晶子が板列八幡神社を参拝した際に詠んだ歌です。鉄幹の師である落合直文が夫妻に先立つ明治32年に参拝した時の歌とともに刻まれています。

落合直文
与謝野鉄幹
与謝野晶子

14 ふるさとの我が松島に比べ見む朝霧晴れよ天の橋立 直文
み柱にわが師の名のみ残るにもぬかづき申す岩滝の宮 寛
海の気と山の雫の石濡るる八幡の神の与謝の御社 晶子